

碑文

民謡王国・秋田の中でも
この田沢湖は、民謡や郷土
芸能の宝庫として知られて
いる。
生保内盆地を吹き抜け、
秋の実りを約束する宝風が
生保内節を生み、長者の山
は玉川が発祥の地と伝えら
れ歌い継がれてきた秋田を
代表する民謡である。
また、生保内田植踊りは
田植の所作を踊りに組み
入れた県内唯一の田楽であ
り、全国に例を見ない珍し
い郷土芸能といえる。
この地で生まれ育まれて
きたこれらの優れた民謡や
郷土芸能が未永く後世に継
承されることを願い、民謡
碑をここに建立する。

平成二十二年十月

民謡碑建立実行委員会



民謡への想いを込めた 民謡碑を建立



石神地区の子どもたちが踊る「田植踊り」

郷土芸能の 宝庫と呼ばれる

「吹けや生保内だし」の唄
い出しではじまる生保内節
は、他に似ている民謡がほと
んど見あたらず、この地で発
祥の民謡であると言われてい
ます。また、石神地区に伝わ
る「田植踊り」は県内唯一の
もので、その踊りが独特の田
植え踊りとして踊り継がれて
います。

民謡をはじめ郷土芸能は、
その土地の風土や暮らしが生
んだ独自の文化です。田沢湖
周辺には特に多く伝えられて
おり、郷土芸能の宝庫といわ
れています。

秋田おばこの女王

佐藤貞子



ふるさとの先人。民謡歌手。
その美声と声量は、全国で評判
となり、ともに秋田民謡の数々
が全国に知られることとなった。

「秋田おばこ」 で一世を風靡

佐藤貞子は明治19年、神代
村で農家を営む、佐藤清賢の
次女として生まれました。

父親の清賢は「右に出るも
のなし」と言われるほどの横
笛の名手。貞子も幼い頃から
唄や踊りの稽古を積み、その
才能を次第に発揮させていき
ます。やがて佐藤親子は、近
近在郷の村祭りなどで、大い
に評判となつていきます。

貞子21歳の時、新たに一座
を興こした父親と共に県内を
興行すると、貞子の「秋田お
ばこ」は、行く先々の聴衆を
魅了していきます。

大正10年、秋田市千秋公園
観桜会での公演は大評判とな
り、全県下にその名が知られ
ていくのでした。

翌11年に東京で行われた、
平和大博覧会の全国芸能競演
会に、秋田県代表として出演
し、見事に全国一に輝いた貞
子たちは、これを機に全国巡
演の旅に出ます。

貞子の唄はレコードとなり、
「秋田おばこ」「秋田甚句」の
入ったレコードは、やがて
60万枚を売り上げるヒットと
なります。貞子の人気は上昇
していき、各公演先には大勢
の人が訪れる、押しも押され
ぬ「民謡界の女王」となった
のでした。

秋田県民謡協会主催

秋田民謡全国大会優勝 (民舞の部)

藤原ミサ子社中



若い世代に伝えたい大切な文化

暮らしの中に ある民謡

今年第25回を迎えた「生保内節全国大会」、最近では年別の参加者に、偏りが見られることもあると言います。かつて、祝いの席や会合など人々が集まる中、自然と民謡を唄い、踊る。そんな姿を見る機会も少なくなっているのかもしれない。

そんな中、芸能を大切にしたいこう、伝えていきたいこうと、地元郷土芸能6団体が中心となり民謡碑建立実行委員会が発足。賛同する大勢の皆さんの協力により、民謡碑が完成しました。

チームワークで 優勝つかむ

第2回秋田民謡全国大会民舞の部優勝の藤原ミサ子社中。(大原志枝さん、小松結香莉さん、齊藤友理さん、深谷夏美さん、佐々木瑛莉菜さん) 大会までを次のように振り替えます。

「仕事や学校で、練習時間が取れず、みんなで踊りを合わせ

る時間がないことも」「先生に『生保内の風に揺れるススキの様にしなやかに、でも芯はしっかり』と何度も言われました」「昨年の準優勝以上を見せたいと重圧もあった」

厳しい条件の中、大原

さんを中心に、稽古内容を連絡し合い、自主練習を繰り返し、稽古出られた日は、みんな遅くまで



先生を囲み笑顔の一コマ

踊ったと言います。猛稽古が実を結んだ優勝に「会場で歓声を上げた」「うれしくて涙が出た」と皆さん。

「踊った子どもたちが、チームワーク良く、本当にがんばった。『緩やかな踊りをしっかりと表現していた』と講評を聞きほっとした」と藤原先生。

伝統芸能を伝える皆さん。活躍がますます期待されます。

佐藤貞子没後60年記念行事

佐藤貞子フェスティバル

「文化講演と芸能のつどい」

日時 平成23年1月23日(日) 13:00～16:00

会場 わらび劇場 **入場無料**

第1部 記念講演 浅利香津代
「佐藤貞子の魅力ー貞子を演じてー」

第2部 芸能発表 ー貞子にささぐー
仙北市内の民謡・芸能・芸術団体出演予定

シンポジウム「佐藤貞子と秋田民謡」

日時 平成23年1月15日(土) 13:00～16:00

会場 たざわこ芸術村(ゆぼぼ本館「紫苑」)
入場無料

主催 仙北市伝統文化活性化委員会
代表 大山文夫(仙北市芸術文化協会会長)

事務局 一般財団法人民族芸術研究所 TEL 44-3903



こうして秋田民謡の評価を高め、民謡王国としての礎を築いた貞子は、昭和23年、次

女玉枝を二代目とし現役を退いた後、昭和25年、64歳の生涯を静かに閉じます。

抱返り神社にある佐藤貞子の碑は、秋田民謡への功績を、讃え末永く伝えようと、昭和40年に田沢湖町郷土芸能振興会が建立しました。

全国的に秋田郷土民謡の声を高めた功績は誠に大きいものがある

「秋田民謡の開拓者」貞子の功績を、没後60年、碑に刻まれた一文が今も伝えます。